

# 札幌学院大学

商学部 経済学部 人文学部 法学部 社会情報学部 商学部第二部

人間科学科 英語英米文学科 法律学科 社会情報学科 商学科

Sapporo Gakuin University

# 学園広報

1992. 11. 30 No.53

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室  
〒069 北海道江別市文京台11番地  
電話 (011) 386-8111

## 歴史とロマンに聴衆魅了 講演と音楽の夕べ

### 明治維新のリーダー達は 世界をどう見たか

—第16回学術講演会—

第十六回学術講演会「講演 名譽教授・文学博士が、と音楽の夕べ」が、十月二日午後六時半より札幌市共済ホールにて開催されました。

当日は、久しぶりに好天気と思われ、四五〇名の観客の熱気で、会場は暑くさえ感じられました。今年、経済学部の中野彰教授(北海道大学)の田中彰教授(北海道大学)が、名譽教授・文学博士として講演しました。

当日は講演に先立ち、見聞に思われ、四五〇名の観客の熱気で、会場は暑くさえ感じられました。今年、経済学部の中野彰教授(北海道大学)の田中彰教授(北海道大学)が、名譽教授・文学博士として講演しました。



中野彰教授(北海道大学)

長から、講師田中彰教授の紹介がなされた後に講演に入り、田中教授は「明治維新の世界をどう見たか」と題して講演しました。

当日は講演に先立ち、見聞に思われ、四五〇名の観客の熱気で、会場は暑くさえ感じられました。今年、経済学部の中野彰教授(北海道大学)の田中彰教授(北海道大学)が、名譽教授・文学博士として講演しました。

その後の近代日本の道と密接不可分です。このことは変革期における歴史の選択の問題といってもよいでしょう。二一世紀を目前にしての激動の一九九〇年代にあって、日本はどうあるべきか、いま私たちは歴史の岐路に立っています。二〇年前の維新のリーダー達の国際社会への対応は、私たちに何を授けていたのでしょうか」と一時間程話され、聴衆を魅了しました。

休憩をはきんで、現在活躍中の中野彰教授、札幌交響楽団主席チェロ奏者の土田英順氏と東京で活躍中のピアノ奏者藤井一興氏のお二人による「ペートルベンツの室内楽」と題して、「ユダスマカベウスの主題による十二の変奏曲」、「チェロソナタ第一番 へ長調 作品五の二」が演奏されました。最後は、聴衆の盛大な拍手に応え、アンコール曲を演奏したが、拍手はなり止まず再度アンコール曲を演奏して、学問の秋・芸術の秋の一夜をゆったりと締めくくりました。



講演と音楽の夕べ

陸上競技部  
全日本大学駅伝健闘  
好記録へ着実な歩み

九月末に行われた、第四回北海道大学駅伝において三連覇を達成、十一月一日に行われた第二十四回全日本大学駅伝に三年連続北海道代表として出場した。

熱田神宮伊勢神宮間、一〇六・八キロメートル八区間の戦いに全国八地区の代表二十三校が参加、昨年と同順位の二十一位であったが、五時間四十八分とトータルタイムでは昨年より十三分十二秒縮め、念願の五時間台を達成、着実な歩みを見た。



昨年よりトータルタイムで13分12秒縮めゴールするアンカーの畠山万里君(法学部2年)

### 父母懇談会開催

去る十月二十四日、札幌学院大学後援会並びに関係教職員との協力のもと、今年度の父母懇談会(札幌圏)が本学に開催された。

今年からは、小樽、岩見沢、苫小牧等これまで独自に開催していた地域を札幌圏に含めたため、参加人数も昨年の五十一名を上回る七十五名となりました。

新たに札幌圏に含まれた地域では、毎年の開催が可能となり、この点では改善が図られたものと考えております。ただ、その他の地域で、他の地域で、札幌圏での全学年対象

	札幌圏	旭川圏	北見圏	合計
対象者数	592人	421人	196人	1,209人
出席者数	75人	97人	60人	232人
出席率	12.7%	23.0%	30.6%	19.2%

### チンギス・ハーンの都を確認 帯広市民講座



その陸奥探検から  
鶴丸俊明

帯広市民講座「講演と音楽の夕べ」は、九月四日(内)、帯広市民文化ホール(小ホール)を会場に開催された。午前中の天気が嘘のように、午後四時から雨が降り出したが、それでも熱心な聴衆が、約三〇〇名程集まり講演と音楽に耳を傾けていた。

見聞学長から本学の沿革、市民講座の由来、そして日頃の支援に対するお礼の挨拶がなされた。続いて、鶴丸俊明人文学部助教授が、「チンギス・ハーン」その陸奥探検から(ヒヤン)の二人を迎えて演奏された。

曲目は、「ユダスマカベウスの主題による十二の変奏曲」、「チェロソナタ第一番 へ長調 作品五の二」の二曲、それぞれを二人共息のあつた演奏を披露、終了後も盛大な拍手に応え、アンコール曲を演奏して、聴衆を大いに魅了した。



十一月三日午後一時三十分から、東北・北海道地区の代表を決める、第七回東日本学生アメリカンフットボール王座決定戦が宮城県陸上競技場で行われた。

北海道学生リーグ優勝校で二年連続出場の本学は、東北学生リーグ優勝校で五年連続出場の東北大学と対戦、七対十四で惜敗したが今までの好対戦となった。

### アメフト 東日本学生王座決定戦 東北大学を追い上げる

### 平成5年度 入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表
法学部法律学科 商学部第二部商学科	1月8日(金)~1月22日(金)	2月8日(月)	本学 東大 阪大 青森	2月24日(水)
経済学部経済学科 人文学部英語英米文学科		2月9日(火)		
商学部第一部商学科 人文学部人間科学科		2月10日(水)		
社会情報学部社会情報学科 商学部第二部商学科(第二期試験)		2月11日(木)		
	3月1日(月)~3月8日(月)	3月11日(木)	本学	3月13日(土)











# 全国大会へ躍進

## パワーアップする課外活動



道学生選手権V2 - 対北大戦

### ■アメリカンフットボール部 東日本学生王座2年連続出場

昨年、道学生選手権初優勝を成し遂げたアメリカンフットボール部は、今年も素晴らしい活躍をみせてくれた。春季スランボウルで三位という屈辱を味わった後は秋の学生選手権に照準を定め、猛練習の日々が続いた。いよいよ秋、開幕戦から好調なスタートを切り、総合力で勝る本学は四試合を全勝で終え、迎えた最終戦、昨年引き分けに終わった宿敵北海道大学と全勝同士の対決となり、逆転に次ぐ逆転で劇的な勝利をものにし、道学生選手権二連覇を全勝で飾った。これにより二連覇出場となった「第七回東日本学生ア



### ■陸上競技部 全日本大学駅伝 3年連続出場

陸上競技部は、今年もシーズン当初から好調な出足を見せ、札幌小樽間駅伝、北日本選手権と出場し、六月の北海道学生陸上競技選手権大会では、実力を発揮し他大学を圧倒。トラック・フィールド競技において昨年に続き男子は二年連続総合優勝を成し遂げた。これにより、ハンマー投、砲丸投、走幅跳、走高跳、二

メリカンフットボール王座決定戦「サウザンボウル」は十一月三日、仙台市宮城野区上野球場で行われ、昨年同様東北大学と対戦。昨年の雪辱戦となったこの戦いは、前半相手に先制を許し、後半の猛追で巻き返しを計るがあと一歩及ばず、七対十四で惜しくも敗れた。東日本王座の優勝はならなかったが、本学にとっては来年への目標が定まったのではないかと考えられる。シーズンも学生選手権三連覇と東日本王座の奪取に向け、更なるレベルアップに期待したい。

今年で創部五年目を迎えた軟式野球部は、当初十数名と少ない部員が、今年も四十名以上に達し、クラブの成績も急上昇している。今年、北海道にも大学軟式野球連盟が結成され、道内大学では一部二部あわせて十一の大学が加盟した。六月の春のリーグ戦においては三勝二敗とリーグ三位、秋季のリーグ戦についても同じく三位という結果に終わっている。しかし十月、東日本大学軟式野球選手権北海道予

選において、一回戦より順調に勝ち進み、決勝で酪農学園大学を下し、みごと優勝を成し遂げた。これにより十一月中旬、埼玉県戸田市で開催の「東日本軟式野球大会」に出場。東日本の地区予選を勝ち抜いて来た強豪と対戦し、創部五年目にして大きな前進を勝ち取った。軟式野球は近年、接しやすいつい人気に支えられ、競技人口も多い。本学の部員の急増も例外ではなく、それによって選手層も充実し、年々



成長した結果が今シーズンの成績につながったものと考えられる。来年もさらに前進することを願いたい。

軽音楽部は本学の文化会に所属する音楽系サークルのなかでもひととき個性的な活動を行っている。部員も約四十名と文化会の中では比較的に規模が大きく、それだけに個性のある音楽好きのバンドメンバーが集まり日々練習に励んでいる。「軽音楽」と一口に言っても実際のジャンルは幅広く、部員各人が自分の音楽を極めていく。今後クラブの精神的な音楽活動に期待したい。



大学祭恒例の模擬店「ライブスペース宝島」

### ■軟式野球部 創部5年で東日本大会初出場

今年で創部五年目を迎えた軟式野球部は、当初十数名と少ない部員が、今年も四十名以上に達し、クラブの成績も急上昇している。今年、北海道にも大学軟式野球連盟が結成され、道内大学では一部二部あわせて十一の大学が加盟した。六月の春のリーグ戦においては三勝二敗とリーグ三位、秋季のリーグ戦についても同じく三位という結果に終わっている。しかし十月、東日本大学軟式野球選手権北海道予

卓球同好会の今年の活躍にはめざましいものがあり、新入部員を多数迎え選手層も充実し、まさに急上昇中のクラブと言える。今年の大会では、全道において五部制、二十以上ある大学チームにおいて、春季リーグで、四部から三部、秋季リーグでは三部から二部へ昇格と好成績を収めた。昨年まで五部リーグだったことを考えると、飛躍的前進であると言える。そして春のリーグ優勝により七月、「全日本大学対抗選手権大会」への出場を決め、名古屋に遠征した。また、個人戦の全国大会にも出場者を出すなどレベルが格段に向上



創部25年、伝統を誇る少林寺拳法部

三連覇を達成した。十一月一日、三度目の出場となった名古屋―伊勢神宮間で行われた「第二十四回全日本大学駅伝対校選手権大会」は、八区間・一〇六・八キロを走り抜き、昨年よりもタイムを三分縮め、二十三校中二十一位と大健闘した。順位こそ昨年同様ではあったが、

タイムアップは選手達にとって大きな自信につながったものと思う。全国の壁は厚いが、駅伝チームの着実な成長ぶりが窺える。トラック、フィールド、駅伝と各競技部門で来年度もますます期待が高まる陸上競技部である。

少林寺拳法部は本学創立以来からの伝統のある武術部で、創部二十五周年を迎える。部員は三十名ほどで、道内大学のなかでも選手層の厚さと、その技術の高さで成績も常に上位を占めている。今年の活躍は六月、北海道学生少林寺拳法大会において、有段者の部と段外者の部で、最優秀賞を受賞した。ま

た、七月の北海道大会では三段の部で最優秀賞、初段の部で優秀賞を獲得し、全国大会への出場を果たした。十一月の全日本学生大会では、予選通過者を出すなど、日頃の練習の成果を着実に試合結果に結びつけている。来年度も更に上位を目指して頑張ってもらいたい。

## 企画満載の大学祭

### 第22回大学祭「文京の丘、情熱祭り」



井舌さわやか 野球解説者で名球会投手(元ロッテ投手)の村田兆次氏を迎えての体育会特別講演会

今年も恒例の大学祭が十月八日から四日間の日程で開催された。今年の大学祭の特徴は、例年の模擬店や露店の出店に加え、屋外でのステージ企画、また三人の著名人の講演会等も企画され、秋のキャンパスに賑わいをみせていた。初日、伝統の「オカマコンテスト」を中心に初日祭が屋外ステージで繰り広げられた。続く二日目、元ロッテの口野球投手として名高い村田兆次(野球解説者)氏を迎えての特別講演会が開催された。この日は平日にもかかわらず多数の聴衆で会場は埋まった。三日目には、笑福亭鶴瓶(タレント)氏を迎えての講演会が企画され、こちらも会場内は超満員で笑いの熱気に包まれていた。最終日はオリンピックマラソン選手の中山竹通(ダイエー)氏を招いての講演が行われ、会場にはファンが多

数詰めかけた。また、後夜祭では学生達がファイヤーストームを叩んでフォークダンスや各種ゲームが盛り上がり、最後に打ち上げ花火で四日間を締めくくった。このほか、期間を通して体育館での巨大迷路やサークルの各種模擬店・展示などそれぞれが好評を博していた。来年度もまた学生実行委員の活躍によって、さらに企画が洗練され、大盛況の「学院祭」となることを願いたい。